

平成 26 年台風 11 号を踏まえた今後の出水対応を検討する会 議事概要

1. 日 時：8月29日（金）10：00～12：00
2. 場 所：ひまわり会館 2F 会議室
3. 出席者：武藤 裕則（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 教授 座長）
長田 健吾（阿南工業高等専門学校創造技術工学科建設コース 准教授）
田村 隆雄（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授）
湯城 豊勝（阿南工業高等専門学校創造技術工学科建設コース 教授）
松原 一夫（阿南市防災対策課長代理）
森下 藤夫（那賀町地域防災課長）
赤松 薫（那賀川河川事務所長）
森 直紀（徳島県県土整備部河川振興課長）
4. 配布資料：
 - 資料1 議事次第
 - 資料2 配席図
 - 資料3 規約（案）
 - 資料4 台風 11 号の雨量、河川水位の状況等について
 - 資料5 長安ロダムの操作状況について
 - 資料6 樋門、排水機場の操作状況について
 - 資料7 長安ロダムの関係機関及び住民への情報提供について
 - 資料8 河川の関係機関（市町を含む）及び住民への情報連絡・通知方法等
5. 議事要旨：
 - (1) 台風 11 号の 2 日雨量は過去最大ではないが流量は過去最大である。他機関のデータも含めて過去の主要な洪水と比較しての分析が必要である。
 - (2) 流量が過去最大となったのは、台風 12 号の降雨の影響も考えられるため検証が必要である。
 - (3) 痕跡水位について右岸に比べて左岸が縦断的に高いのは風の影響も考えられるので精査が必要である。和食地区についても同様の痕跡調査と分析が必要である。
 - (4) 河道の湾曲（屈曲）の影響による水位上昇について正確に把握する必要がある。
 - (5) 潮位によりどの程度水位が変わるかについて確認が必要である。
 - (6) ダムの貯水率について、もっと貯められなかったか、事前にもっと下げておけなかったかの質問については分かり易い説明の検討が必要である。
 - (7) ダムの流入量予測の変遷と実績との比較分析が必要である。
 - (8) 防災メールの登録者数について流域内住民の割合がどの程度か、情報提供に対し

てどのように行動したか等についても今後は把握する必要がある。

- (9) 自治体としてはリエゾン、ホットラインなどの情報については、非常に有意義であった。
- (10) 資料-5について、改造後のシミュレーションの結果が必要である。
- (11) ダム放流量と河川水位で避難判断していると思うが今後は支川からの流入量を考慮した情報提供も検討が必要である。
- (12) リードタイムをもっと長く取る必要があるため無堤地区の流量・水位と氾濫の相関関係の整理が必要である。

以上